

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 179 号 (2025 年 2 月号)

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



年明け早々、私のスマホにアメリカの見知らぬ番号から着信がありました。普段だったら絶対取らないのですが、年末年始の忙しさで疲れていた私は、ついつい出てしまったのです。そうすると「宮地さんですか」「はい」「あなたの名前が犯罪者リストに載っています」「はい？」そして畳みかけるように「今すぐ身分証を持って佐賀県警に行けますか」と。小心者の私は正直ドキドキ。でも元気よく「はい、行けます！」と答えた途端、電話が切れたのです。今、流行りの詐欺の電話でした。みなさまもお気を付けください！



今月も神さまからの恵みが、お一人お一人の上に豊かに注がれますように。

(2025.02.01)



アップアップの人生から

先日、喉の痛みがひどかったので、久しぶりに病院に行きました。私の見立てでは、単なる風邪で喉の炎症を抑える薬を処方してもらえたら良かなぐらいに考えていたのです。ところが私の喉を一度見た先生から「ご家族に似たような症状の人はいますか」と聞かれ、「はい、妻と娘が」と答えると、もう一度私の喉をのぞき込み、はっきり「これは〇〇ですね」と診断されました。そして処方された薬を飲むと、1日で痛みが治まったのです。改めて専門家としてのすごさを実感したのと同時に、自分の身体のことなのに、良く分かっていない現実を突きつけられました。



自分のことは自分が一番良く知っている。以前はそう思っていました。けれど年齢を重ねるにつれ、自分が何者なのかが分からなくなってきたのです。本当の自分は、どの自分なのか。自分でも理解できない自分の言動。どうすることもできない感情。そんな自分と向き合いながら思い悩む私。平常心を装い、「私は全然大丈夫ですよ」という顔をしていても、全然大丈夫ではない自分を発見します。

こんなことを書くと、「やばいですね。精神的に相当疲れていそう」と思われるかもしれませんが。でも私たちは多かれ少なかれ、このようなやばさを抱え、もがきながら生きているような気がするのです。少し前の朝日新聞の「ひととき」欄に次のような投稿があり、ずっと心に引っかかっていた。

27歳の娘は1年以上前から市販のせき止め薬を飲んでオーバードーズを毎日繰り返している。4年前から不安障害とパニック障害を患っており、精神科にも通院しているが、やめられない。…

彼女は楽しくてオーバードーズをしているわけではない。社会に適応できない、アルバイトも続かない。人との付き合い方も分からない。孤独で寂しくてオーバードーズしなければ外の世界に出ていけない。誰かに彼女の気持ちを聞いてほしい。私の言葉では助けにならない。誰か彼女の心を救ってくれる人はいないだろうか。

【朝日新聞 2024.9.20「ひととき」より】





「誰か彼女の心を救
ってくれる人はいない
だろうか」このお母さ

んの切実な叫びに、心が痛みました。娘さんが
苦しむ姿を見るのは親として、本当に辛かつ
たでしょう。彼女が回復するためだったら何
でもしてあげたい、そう思って動き回られた
はずです。けれど何の解決も与えられません。

私も親となって、親というのはなんと無力
だろうかと日々痛感しているのです。子ども
が小さいうちは、親としての役割を十分果た
せているような気になれます。常に自分の周
りに子どもがいますし、大きな問題が起こる
ことは稀だからです。けれど子どもたちが
成長するにつれて、すべてに関わ
り、助けることができなくなりま
す。私たちの目の届かないところで
起こることが多くなり、問題も複雑
になるからです。

そんな中で私が親として子ども
たちにしてあげられることは、先ほどのお母
さんのように一緒に叫ぶことだと教えられた
のです。「誰か彼女の心を救ってくれる人はい
ないだろうか」という叫びは、実に娘さんの叫
びでもあります。彼女は必死で生きようと
しながら、どう生きたらよいか分らなかった
のです。この彼女の声にならない心の叫び
を、お母さんが一緒に叫んでくれた。これがど
れほど娘さんの心を力づけたことでしょうか。

それにしても生きるって、そんなに簡単で
はないですね。子どもたちを見ていると、様々
な生きづらさを抱えながら毎日を何とか生き
ています。「がんばって生きよう」という励ま
しだけでは、どうにもならない世界がそこ
にはあるのです。

寂しさ・空しさ・生きづらさを感じ「誰か私
の心を救ってくれないだろうか」と心の中で
叫んでいる方は、少なくありません。一方で
「自分の苦しみを理解して、自分を救ってく
れる人なんかいない。自分を救えるのは自分
だけだ」とあきらめている方も多いような気
がするのです。確かに自分のすべてを周りの
人に理解してもらうのは無理ですね。だから
結局「頼りになるのは自分だけ」となってい
くのも分かります。けれどおぼれている人が
自分を自分で救えないのと同じように、私た
ちは自分を自分で救うことができないのです。
「私がおぼれているだって？ 冗談じゃない！」
と怒られるかもしれません。



でも日常生活でアップアップす
ることはないでしょうか。私は結構
アップアップします。寂しさ・空し
さ・生きづらさを覚え、辛くなるの
です。そうなるのは大抵、自分に頼
り、自分で自分を救おうと頑張っ
ているときです。その頑張りが効かなくなり、限
界に達すると、私は我に返らされます。そして
「イエスさま、私は高慢にも自分で自分を救
おうとしていました。どうか私を救ってくだ
さい」という祈りが内から湧いてくるのです。

私たちの心も身体も救ってくださるお方は
イエスさましかおられません。もしご自分が
アップアップしていることに気づかれたら、
ぜひ私たちの心を救い、すべてをご存じのイ
エスさまに叫んでください。必ずお一人お一
人に必要な助けをイエスさまが与
え、救ってくださると信じます。



主(神さま)の御名を呼び求める者は

みな救われる。[聖書]



- 礼 拝 毎週日曜日 10:30~12:00
- イズミン・キッズ 毎週日曜日 9:30~10:20
- おやこ de えほん 毎週水曜日 10:30~12:00



* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。